平成２８年度　第４回理事研修会
道小教育研究宗谷・稚内大会について　　協　議

教育研究大会の基本的な考え　大石研修副部長

教育研究大会の基本的な考えは、「校長の職の向上、本道教育の振興を目的とした道小の研究活動の中核を担うものが教育研究大会である」と位置付けている。教育研究大会は北海道小学校長会が主催し、開催地区は原則として５ブロックが持ち回りとして大会運営を主管する地区校長会が行う。資料には、大会主題、副主題、研究課題の趣旨の作成と決定、大会のテーマの作成・決定について、分科会の研究発表、協議等の運営についての手順が書かれている。
参加期待数に関わる基本的な考えも書かれている。確認をお願いしたい。

次期教育研究大会に向けた道小の基本コンセプトは、「道小の教育研究の基本コンセプトと現地実行委員会の大会に対する思いを融合し大会の基本方針を確立させる」ことである。第６０回道小教育研究宗谷・稚内大会は、現在の大会主題で開催される５回目の開催となる。小樽大会までの成果と課題を検証する大会でもある。また、平成３０年、北海道函館市で開催される第７０回 全連小研究協議会北海道大会に向けての研究の方向性を視野に入れる大会でもある。副主題と分科会構成を変更して行う大会でもある。

今後は、宗谷地区の実行委員会と密に連携を図りながら、進めていきたい。大会の発表内容の充実を図るために、平成２９年５月に開催する第１回分科会運営者研修会からすぐに実質的な動きができるようにと考えている。できる限り、今年度中に研究発表者を決定し、早めに研究発表の準備に取り組むことができるように配慮を願いたい。

キャッチフレーズ　シンボルマーク　進捗状況
大島指名理事

道小教育研究小樽大会では、実行委員会の皆様のきめ細かなすばらしい運営を学ばせていただいた。少しでも、近づけるようにしたいと考えている。

一次案内（案）の表のバックの写真は、エゾカンゾウが咲くサロベツ原野から利尻富士を望む写真である。第６０回の節目の大会は、２０年ぶりに稚内市において平成２９年９月８、９日に開催する。キャッチフレーズは稚内市が子育て運動の発祥の地であることから「日本のてっぺん子育ての街から　子どもたちが輝く未来に向かって新たな挑戦を」とさせていただいた。

シンボルマークについては、大人と子どもで子育て道しるべの北極星と宗谷のＳとＹをイメージしている。

記念講演は川島隆太先生にお願いしている。現代の子どもたちの課題であるネットとゲームの影響について脳科学から指摘していただく予定である。

全体会、分科会の会場は、小樽大会と同様、稚内市内徒歩１０分圏内で確保できたところである。多少狭い会場もあるが、スムーズに移動ができると考えている。稚内は最北の地、または、利尻礼文の玄関口として夏場は多くの観光客が訪れる。９月はオンシーズンなので、宿泊は大変混み合うことが予想されるが、現時点で３５０室、６２５名分を宿泊として確保している。この後も上積みが可能と聞いている。ただ、観光地なので２名１室が多くなっている。部屋数が増えると料金が若干高くなるが、シングルユースにも対応できるということである。

宗谷地区は、今、中学校長会の協力を得て、大会実行委員会を組織している。皆様のご支援をいただきながら、６０回の節目にふさわしい大会になるように準備を進めていきたい。今後ともどうぞよろしくお願いする。

研究主題・副主題　研修の視点について　大石研修副部長

第６０回道小教育研究宗谷・稚内大会「研究主題・副主題･分科会研究課題・趣旨及び研修の視点」の冊子は、平成３０年、北海道函館市で開催される第７０回 全連小研究協議会北海道大会を視野に入れて、作成している。現在、副主題･趣旨及び研修の視点については、全連小常任理事会で検討されている。今後、変更になる箇所も出てくる可能性がある。ただ、大会の大枠については、大きな変更はないと思っている。

副主題と大会主題の趣旨について説明する。大会主題の趣旨については、副主題設定の理由として、今後、全連小研究協議会北海道大会の大会要項に掲載されるものである。 副主題は、以前の理事研修会でも、お話ししたように文言を変更している。

「ふるさとの地から世界を見つめ」という部分と「新しい社会の形成に向けて」の部分に今までは、「，」が入っていたが、全連小常任理事会で議論された結果、「，」をなくして、半角スペースをいれることになった。また、「新しい社会 」という言葉の意味づけが求められている。本文の中で、理由を加えていく予定である。

分科会の再構成について説明をする。 研究課題と研究の視点については、現在の教育情勢や全連小大会の流れから変更している分科会がある。まず、今までの道小の大会ではは「リーダーシップの視点」という表現を使っていたが、全連小の全国大会では 「研究の視点」という表現が使われている。この表現に合わせていきたい。その研究視点だが、第３回理事研修会で伝えていたものといくつか変更したものがある。

第３分科会「評価・改善」では「学校評価の充実」と「人事評価の工夫」とした。

第５分科会「豊かな人間性」では「人権教育の推進」と「道徳教育の推進」とした。

第６分科会「健やかな体」では「運動に親しむ教育活動の推進」と「健康教育の推進」にした。他の分科会については、教育情勢を鑑み、文言の変更はあるが、課題研究の視点に大きな変更は加えていない。

この冊子は、理事の方と研究発表者の方の分を、今日、お渡ししている。中には３冊お渡しした地区もある。研究発表者が決定したら、渡ししてほしい。今後、全連小常任理事会での議論の結果、一部変更になる箇所も出てくるが、第５回の理事研修会で修正した冊子を再度お渡ししたいと考えている。また、修正したものを道小 HP にもアップしていきたいと考えている。

第７０回 全連小研究協議会北海道大会の研究発表の分担について口頭でお知らせする。　分科会研究の視点１を全国ブロックが担当、視点２を北海道ブロックが担当することになる。たとえば、第１分科会では、石狩地区が研究発表に割り当たっているが、視点１「将来を見据えた明確な学校経営ビジョンの策定」が全国ブロックが提言発表する。視点２「学校の役割を明確にした創造的な学校経営の推進」を石狩地区が研究発表することになる。

今後を見据えた各地区での準備をお願いする。